



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎052(961)2491

皆さん、目が乾くことはありませんか？ ドライアイは涙の量や質が低下する病気です。

涙は、外側の油層と内側の液層から成り、それぞれまぶたの縁にあるマイボーム腺、上まぶたの目尻にある涙腺から分泌され、目の表面をおおい、目を守る働きをしています。ドライアイになると、涙が均等に行きわたらなくなり、乾きや不快感、見にくさや疲れなどが出現し、悪化すると目の表面に傷ができる場合もあります。

日本のドライアイ患者は2200万人ともいわれ、加齢、コンタクトレンズ装用、長時間のスマホやパソコン、エアコンの使用などにより増加しています。また、体の病気や飲み薬の副作用で起こることもあります。

診断は、眼科で目の表面を色素で

染色検査でタイプ別に治療



(眼科部長・小林加寿子)

ドライアイ

染め、目を開けてから涙が乾くまでの時間を診ます。同時に、角膜(黒目)や結膜(白目)に傷がないか確認します。他に涙の量を測定する検査もありますが、この染色検査で涙の質的な異常を診断し、医師がドライアイのタイプ別に治療を考えます。

治療は、涙の不足成分を補う目薬、炎症を抑える目薬、涙の出口である涙点に栓(涙点プラグ)をして涙をためる方法があります。これらの治療を継続した上で、生活環境の改善として、例えば画面を見る作業やコンタクト装用時間を減らすこと、エアコン調整や加湿器の使用も効果があります。気になる目の症状がありましたら、ドライアイが原因かもしれないと、一度眼科を受診し、相談してみてください。